

園長だより「季節を感じる」 第18号

日本の良さを挙げていくときりがありませんが、その中の一つは春夏秋冬があるということ。四季折々の季節を感じるができるということです。そして、その四季の移り変わりは日本独特の繊細な感性と相まって美しい日本語をたくさん生み出してきました。例えば、「雨」。「小糠雨」「甘雨」「花時雨」「小夜時雨」「栗花落」「洒涙雨」「月時雨」「鬼洗い」等・・・。「雨」を表現する言葉だけを集めても一冊の本が出来上がりそうですね。

季節の移り変わりを感じるものといえば年中行事もあります。桃の節句にお雛さまを飾ったり、端午の節句にこいのぼりを風に泳がしたりするというような昔から行われてきた伝統的な行事もありますし、ハロウィンのようにここ10年ほどで異常に盛り上がるようになった行事もあります。余談になりますが、私の父の故郷である高知ではこいのぼりではなく「フラフ」（フラッグが変化してフラフという言葉になったようです）を上げるお家が多いです。大漁旗をモチーフにしたフラフには源義経や那須与一のような武者絵や雷神の子である金太郎が鯉に馬乗りになったような勇壮な絵が描かれます。大きい物だと4m×7mもあり、たくさんの鮮やかな色のフラフが屋根の上ではためく光景は高知の初夏の風物詩になっています。

城東ちどり保育園では子ども達に季節を感じてもらえるように様々な取り組みを進めています。月ごとに実施しているお誕生日会ではそれぞれの季節を感じられるパネルシアターになるように工夫しています。お正月にはしめ縄と鏡餅、桃の節句にはお雛さまを飾ったり、端午の節句には兜・鎧を飾り、園庭にこいのぼりを上げたりしています。

初詣をしたり、おせち料理を食べたり、「鬼は外、福は内！」と豆まきをしたり、お雛さまを飾ったり、こいのぼりを風に泳がしたり、七夕で短冊に願い事を書いたり、お月見をしてお団子を食べたり、ハロウィンを楽しんだり、クリスマスツリーをデコレーションしたり・・・。

子ども達に年中行事や食べ物や植物や自然現象で季節を感じさせることは豊かな感性を育むという点でとても大切なことだと考えています。ご家庭でも無理のない範囲でお子さんが季節を感じられるようなことをしていただければうれしく思います。最近是一年、あるものもありますが、旬の食材を食べるとというのが案外お手軽かもしれませんね。

子ども達の成長は緩やかなものです。特に豊かな感性・自己肯定感・忍耐力・自制心・自立心・協調性・共感力・コミュニケーション力などの非認知能力（私は「見えない学力」と呼んでいます。）は一朝一夕に身に付くものではありません。私たちはつい認知能力（テスト結果などで数値化できる能力、いわゆる見える学力）の方に目が向きがちです。もちろん、認知能力をおろそかにするわけにはいきませんが、非認知能力のベースを作る乳児・幼児期にその能力をしっかりと育てていくことは極めて重要です。

- ① 愛情 ② 好奇心 ③ 共感 ④ 自信

非認知能力を育む4つのキーワードについては次号で触れたいと思います。